山島地区との意見交換会で寄せられた意見（令和８年６月協議）

（テーマ）

・少子化が止まらない　白山市に求めること

No	山島地区からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	こども園には保護者が仕事をしていなければ入園できない。預けられないから仕事ができない。もっと柔軟な対応が必要。また、第２子を出産して産休から育休に移行した時、第１子はこども園を退園しなければならず、２人の子育ては大変だった。屋内の遊び場がほしい。	【文教福祉常任委員会】 こども園は、幼稚園と保育所としての機能を併せ持った幼保連携型の保育施設です。保護者が仕事をされていない御家庭でも３歳以上であれば入園が可能ですし、またその保護者の働き方が変わったとしても、子供は同じ園に通い続けられるのが特徴です。ちなみに山島地区に近接している各こども園は、現在、幼保連携型を運営しております。 次の「もっと柔軟な対応が必要。また第２子出産して産休から育休に移行したとき、第１子はこども園を退園しなければならず２人の子育ては大変だった」という御意見についてですが、育児休業を取得するということはいずれ勤務復帰するという前提がありますから、現在の制度上、育児休業であれば上の子の通園は可能となっております。 なお育児休業が浸透していなかった時代には退園の取扱いもあったようですが、現状は先ほどの幼保連携型認定こども園化も進められ、子供にとっての通園制度は柔軟に対応できるシステムとなってきております。 最後の屋外の遊び場が欲しいという御意見についてですが、市内には 14 か所の児童館・児童センターがあります。日曜や祝日も開園している児童館もございます。また白山市にはトレインパーク白山という遊びのエリアもございますので、多くの子供たちに御利用いただきたいと思っております。
2	白山市は子育てに関して課題はたくさんあると思う。特に必要なのは女性が仕事を続けられる環境を作ることではないか。白山市にはジェンダーの問題がまだ残ってお	【総務企画常任委員会】 本市では、こども家庭センターを中心に、安心して子供を産み育てることを目的に、子供を担当する部署、学校現場、企業と関わる部署において、

	り意識改革が必要である。女性が仕事と子育てを両立させるには切れ目ない支援が必要だと思う。 **【意見交換会での担当班（議員）の回答】** **皆さんの意見を基に「我が家の子育て」という事例集を作ったら良いと思った。** **孤立しがちな核家族の子育てのアドバイスになる。**	切れ目ないサポートを推進しているところであります。 また、第２次白山市男女共同参画行動計画のもと、あらゆる分野で男女がともに輝く社会づくり、健康で安全・安心な社会づくり・男女共同参画が進む環境づくり、の３つを目標に男女共同参画の実現に取り組んでいるところであります。 しかしながら、御意見にありましたように長年にわたり形成された性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が、ジェンダー課題となっています。 まず、家事や育児は女性が担うべき、男性が働いたほうがよいなどといった、 性別による役割意識が課題となっております。 もう一点は、当事者の考え方を尊重することです。当事者以外の家族や地域、職場などの周囲が当事者の考えを尊重し、当事者の思う子育てや働き方を応援する環境づくりが大切だと考えています。 そのため、本市ではジェンダー課題については、理解が広がる啓発などを中心に進めています。個人個人が考える機会となるよう、地域や職場、家庭で「ゴミ出し」「洗濯」「掃除」「地域活動」「町内会の活動」といった活動について、これは誰の仕事なのか、男だから女だからと決めつけていないか、具体的に自分自身に問いかけ、またこのことが周囲と話す機会となり、見直すきっかけとなるような啓発展示を心がけております。男女共同参画週間である６月 23 日から 29 日の期間に併せて、市内全図書館で「あなたらしさが社会の力」をテーマに男女共同参画についての展示図書のほか、啓発展示にて情報を発信しているところであります。そのほかにも、適宜アンケートを行い、アンケート結果をホームページなどに掲載することに努めています。 次に、女性が仕事を続けられる環境づくりには、仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」の推進が欠かせません。多様な生き方やライ

		フステージに応じた柔軟な働き方を推進し、併せて啓発も行っています。「ワーク・ライフ・バランス」に積極的に取り組む企業に対し、仕事と生活が調和する優良事業所表彰を行っています。企業には法律で定められた責任により、男性の育児休業取得率の公表や、さまざまな社会的責任が求められるなど、社会全体で女性をはじめと 　する多様な労働者が活躍できる就業環境を推進する動きが強まっています。 　本市では、課題の解決に向けて、産学官で連携し発信することで相乗効果があると捉え、試行的にフォーラムを開催いたしました。 　一つは、昨年金城大学との共催により、ワーク＆ライフバランスフォーラムを開催いたしました。 もう一つは、結婚、出産、子育てや介護などの理由により離職した女性への再就職・起業等の支援として、商工会議所との連携により、女性と企業の働き方フォーラムを開催し、私らしい働き方について考え、その実践モデルから自分らしく働くリアルについて、現状をお話いただきました。ハードルであるジェンダー平等には、地域活動の中であらゆる方が意思決定の過程に参加し、共に話し合い、共に考えていく場の創出も重要であると考えております。性別に関わりなく、お互いに話し合い、一人一人がもっている個性や能力を発揮し活躍するには、人権尊重の意識の醸成も必要と捉えており、そのことも合わせ、男女共同参画の実現に向け一層取り組みたいと考えております。
3	山島地区から松任駅で電車に乗って通学する高校生だが、自転車で松任駅までは遠い。めぐーるの時間帯を通学時間に合わせられないか。また、自転車の購入補助、高校生の通学補助をしてほしい。	【総務企画常任委員会】 　めぐーるは市内全域を運行しており、動かせる車両や運転手の確保が極めて難しいことから、運行ダイヤを通学時間帯に合わせることは難しい状況です。 　また、高校生の通学補助については、白山ろく地域の過疎及び定住対策を図るため、白山ろく地域に住所を有する生徒の保護者に対し、通学等に要する費用の一部を助成しております。現在のと

		ころ、他の地域へ対象を拡大する予定はありません ので、御理解いただきますようお願いいたします。 　なお、自転車の購入補助の新設については、対象者を限定することは困難であり、現時点では考えておりません。